

讃岐国府跡を調べる

2023年1月25日
我部山民樹

1. はじめに

讃岐国府の所在地については、江戸時代以来、何人もの人がその場所を探し求めてきたが、長い間特定することはできなかった。が、国司だった菅原道真の漢詩集『管家文草』（かんげぶんそう）その他により、坂出の府中町に国府があった可能性が高いとされ、1922年（大正11年）には府中町に讃岐国庁址碑が建立された。

讃岐国庁址碑
大正11年に建立



○国府候補地周辺の地図



2. 発掘調査

(1) 国府の西にあったとされる開法寺跡の発掘調査

讃岐国の国司だった菅原道真之が、『管家文草』で国府の西の開法寺について触れている。

香川県埋蔵財文化センターの資料によると

【1970年（昭和45年）、府中町本村地区にて古代寺院の塔跡のものと見られる礎石群が発見された。塔の中心にあり、中央に二重の孔を持つ心礎（しんそ）の他、心礎を囲む4本の四天柱（してんばしら）、さらに外側にある12本の側柱（がわばしら）と、塔を構成する礎石がすべて良い状態で残っており、貴重な遺跡であるため、同年県指定史跡に指定された。同時に発掘された瓦から、白鳳時代（7世紀後半の大化改新から8世紀初めの平城京遷都まで）の建立であると見られている。

この地域にかつての国府があった可能性が高いこと、菅原道真の漢詩集『菅家文草』中に、国府の西にある開法寺という寺院について触れた記述のあることから、この開法寺の塔跡ではないかとされた。

2020年に発掘調査した開法寺跡の写真



(2) 国府跡の発掘調査

香川県埋蔵文化財センターの資料によると

【讃岐守を務めた菅原道真の漢詩集『管家文草』の記載や周辺の地割の検討などから、周辺施設や景観も含めた国府研究が早くからなされてきました。2011年（平成23年）からは香川県教育委員会による開法寺東方地区の発掘調査が開始され、国府成立以前の7世紀中葉から廃絶後の13世紀にかけての遺構が検出されました。それによると7世紀後半には、初期讃岐国府か阿野評家、史跡城山（きやま）の関連施設等の可能性が指摘される正方位を指向する官衙（かんが、役所）関連遺構が出現し、8世紀前半には条里地割方向の規則性が高い施設が現れました。そして、8世紀中葉から11世紀にかけては、大型建物をはじめとする複数の掘立柱建物からなる方1町程度の区画が現れ、建て替えを繰り返しながらも

長期にわたって維持されます。11 世紀中葉から 13 世紀になると、井戸を有する一辺 40 メートル程度の屋敷地が 3 ブロック確認されるようになります。7 世紀中葉から 13 世紀にかけての国府域の変遷を知ることができるとともに、『菅家文草』の記載や付近の地割などから国府とその周辺の景観を復元するための情報にも恵まれており、古代国家による地方支配の実態を知る上で極めて重要な遺跡です。

讃岐国府跡で見つかった
大型建物跡



2020 年、讃岐国府跡が国の史跡に指定されました！これは、讃岐国府跡が、日本の古代の歴史を明らかにする上で重要であり、学術上、特に価値が高いと評価されたからです。これまで 30 年以上発掘調査に取り組み、当時の香川県で最大規模の建物群や貴重な出土品を発見しました。】

香川県埋蔵文化財センターの資料によると、史跡等の文化財に指定されると学術調査がなされる。

【平壤宮跡や藤原跡など、範囲が判明し、その重要性が指摘されている遺跡は、特別遺跡や史跡などの文化財指定がなされ、学術調査がなされる。

建築物を建てる際や道路、鉄道などを通す際の土地の再利用の際に破壊が予測される遺跡を記録保存するために地方公共団体、財団法人の埋蔵文化財調査事業団もしくは埋蔵文化財センター、地方公共団体が大学教授などに依頼して組織された発掘調査団、遺跡調査会などがおこなう発掘調査を特に緊急発掘調査（あるいは単に緊急調査）と呼ぶことがある。】

香川県埋蔵文化財センター資料によると

【当センターでは、令和 3（2021）年度から 5 カ年の間、讃岐国府跡調査事業を実施しています。引き続き、讃岐国府の中に点在すると想定される、国庁（国府の中心施設）や国司館（こくしやかた、国司の官邸）をはじめとする様々な施設の位置などを明らかにするとともに、現在推定される国府域の外縁部の状況を

把握してゆく予定です。これらの成果は、讃岐国府跡が多くの方々に親しまれる場所となることを目指して、将来の保存や活用に生かしていきます。】とあり、現在も学術調査が行われている。

(3) 「讃岐国府の建物配置の想定図」



9世紀～10世紀の建物配置の想定図

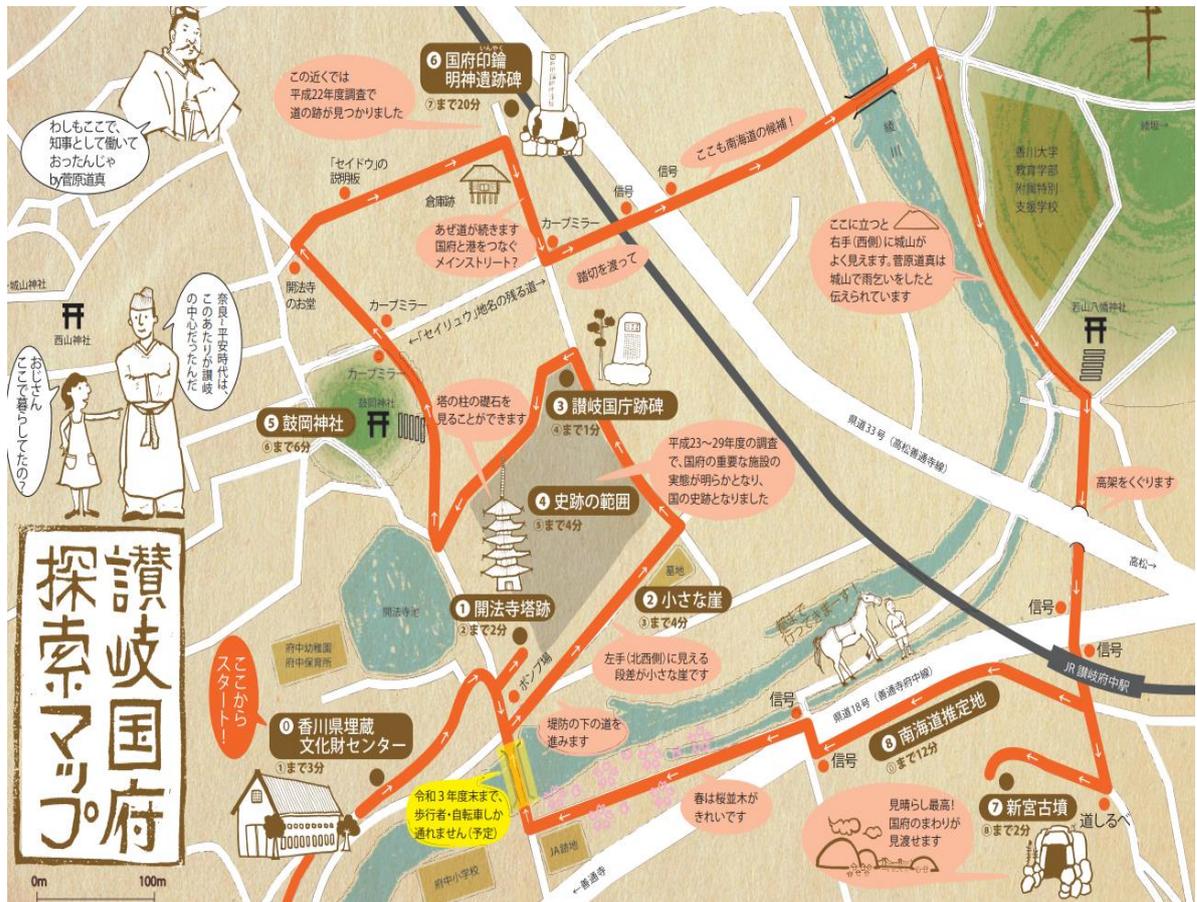
3. 国府周辺の復元図



讃岐国阿野郡林田郷（さぬきのくにあやぐんはやしだごう）は、古くは波夜之陀（はやしだ）と呼ばれていた。林田湊は讃岐国府の玄関口（国府津）になった。綾川の河川交通と瀬戸内の海運が結びつく水上交通の要衝である。

惣社が国府の北方約 5.5 キロメートルのところに鎮座している。惣社は平安時代に諸社を国衙（こくが）・国府近くに合祀したものとされ、第一義的には国衙における神事執行施設であった。また惣社では国司の着任儀式が行われたことが知られ、国衙行事の重要な施設でもあった。

4. 国府跡と菅原道真の足跡



資料によると

【* 讃岐国府跡

菅原道真が国司として政務を執っていた讃岐国府があったとされる場所です。現在も発掘調査が進められています。

讃岐府中駅から徒歩 15 分

* 明神原遺跡

菅原道真が讃岐の国司を務めていた時、城山の神に祭文をよみあげ、雨請いをした場所と伝えられています。明神原は、城山神社が最初にあった場所とも

いわれ、神が降り立つ場所として古来より神聖な場所とされています。

鴨川駅から車で約 20 分

*城山神社 (きやまじんじゃ)



式内大社 (しきないたいしゃ、平安中期, 延喜式神名帳に記載された神社) といわれる由緒ある神社で、讃岐国を統治したとされる国造神櫛王 (くにのみやつこかみくしのみこ、日本書紀の神櫛皇子は讃岐国造の始祖としている) が祀られています。菅原道真が祀った請雨天神社 (あまごいてんじんじゃ) が境内にあります。

讃岐府中駅から車で約 8 分



*開法寺塔跡

菅原道真の漢詩集「管家文草」中に、「開法寺は国府の西にある」と記述があり、讃岐国府の場所を特定する根拠の 1 つになっています。

現代の開法寺



讃岐府中駅から徒歩 15 分

* 黒岩天満宮



菅原道真を祭神とする神社で、学問の神様として多くの参拝者が訪れています。888年に大旱魃の際に、菅原道真がこの地で降雨に感謝する祈りを上げたといわれています。それ以降、この地に祠を建て、祈雨所として菅原道真を祀ったとされています。

八十場駅から車で約 20 分

* 天満神社（石井天満宮）

菅原道真が国司として在任中、南山と呼ばれる山を気に入り、よく足を運んでいたそうです。

その南山に菅原道真を祭ったのがこの神社のはじまりといわれています。

讃岐府中駅から徒歩 15 分



* 犢山天満宮（すすむやまてんまぐう）

菅原道真は、風光明媚な場所に松山館と呼ばれる別荘を持っていたようです。それがこの地だったといわれ、後に祠を建てて祀ったという起源があります。

八十場駅から車で約 10 分

ぜひ坂出にゆかりある偉人の史跡を訪れてみてくださいね。

歴史ロマンに触れることができますよ♪



天満宮の祭神である菅原道真は886年から890年の間、讃岐守として讃岐国に赴任している。当天満宮が鎮座している場所は、かつて讃岐国国府の官舎（有岡屋形）が存在した場所といわれている。

毎年8月25日に行われる滝宮の念仏踊は、重要無形民俗文化財に指定されている。また、香川県で最も有名な学問の神様として多くの参拝者を集める。

886年、菅原道真が讃岐守として讃岐国に赴任する。讃岐国国府（現・坂出市府中）に近い瀧宮の有岡屋形と、讃岐国一宮の田村神社に近い坂田郷（現・高松市上天神）の橋詰屋形の2箇所の官舎に住んでいたという】

田村神社



5. 菅原道真

とても語り尽くせないなので、ウィキペディアの記事にて簡単に紹介する。

菅原道真（すがわらのみちざね、845年～903年）は平安時代の貴族、学者、漢詩人、政治家。参議・菅原是善の三男。官位は従二位・右大臣。贈正一位・太政大臣。

忠臣として名高く、宇多天皇に重用されて、寛平の治を支えた一人であり、醍醐朝では右大臣にまで上り詰めた。しかし謀反を計画したとして（昌泰の変）、太宰府へ大宰員外帥として左遷され現地で没した。死後怨霊と化したと考えられ、天満天神として信仰の対象となる。現在は学問の神、受験の神として親しまれる。大宰府天満宮の御墓所の上に本殿が造営されている。

○道真の主な出来事

年度	主な出来事
845年	道真、生誕
877年	道真、文章博士（もんじょうはかせ、官僚の養成機関である「大学寮」で歴史の学科である「紀伝道」の教官）に就任する。
886年	道真、讃岐守
887年	正五井位下
890年	讃岐守, 徳替（とくかえ、任期を終えて交替）
895年	道真、近江守、権中納言
899年	道真、右大臣
901年	道真、大宰権帥（だざいのごんのそち、太宰府の長官代理）に左遷される
903年	道真、薨去

参考資料

- ・ ウィキペディア
- ・ 香川県埋蔵財文化センター
- ・ 坂出市ホームページ

以上